

# エディット・ピアフ

## 愛の讃歌

### 今秋、全国ロードショー

主演：マリオン・コティヤール [TAXI] [ビッグ・フィッシュ]  
ジェラルド・ドナルド [仮面の男]  
監督：オリヴィエ・タアン [クリムゾン・リバー-2 黙示録の天使たち]  
原題：LA VIE EN ROSE/2007年/フランス・チェコ・イギリス合作/  
カラー/シネマスコープ/ドルビー・デジタル、dts/翻訳：古田由紀子  
上映時間：140分  
提供：ムービーアイ・エンタテインメント×東宝×テレビ東京×朝日新聞社  
配給：ムービーアイ

[www.piaf.jp](http://www.piaf.jp) <<http://www.piaf.jp/>>



フランス大好きな人のための小さな情報誌

# Salut La France

今だから伝えたいフランス [サリュ・ラ・フランス]

特集 **愛～エディット・ピアフ** Edith Piaf

Une brochure sur la France

TAKE FREE

vol.6



- 20区ヘルビル通りのピアフ生誕地。パリパリ下町です
- ポピノ座入り口。今でも多くの芝居、コンサートが上演されている
- 1963年パリ最後の公演。ポピノ座(14区)
- ヘルビル通りは多国籍な街
- ピアフ広場のそばの、カフェ・エディットピアフ。店内はピアフに溢れています
- 20区ペールラシェーズ墓地 Cimetière du Père-Lachaiseに最後の夫テオ・猿マルセル・父とともに眠っている
- 20区にあるエディット・ピアフ広場 Place Edith Piaf

## パリの素顔とともに生きたピアフ



# 素顔のパリ 20区物語

vol.6

photos Harumi Doi

## シャンソン至上主義 chanson française vol.6 エディット・ピアフ～愛～パリ

貝山幸子  
Sachiko KAIYAMA

今秋公開になる映画“エディット・ピアフ～愛の讃歌”の試写を見た。

混沌とした時代の中でパリが素顔をのぞかせていた。ピアフは時代に選ばれ、愛され、そして永遠の愛を手に入れた。試写終了後、言葉も発せない程、私はパリの生々しさとピアフの歌に圧倒された。寒い映画でした。

シャンソン歌手としてステージに立ちながらも、きちんとピアフを聴いた事がなかった私。ピアフと向き合ったのは、渡仏して2年経って、偶然ピアフ博物館があるアパルトマンに住み始めてからだった。(今から10年くらい前の事ね)

「こんな下町選んだのは、ピアフ博物館があるからだったんだ。ここにピアフが住んでたのかな？」荷物運びを手伝ってくれた友人が言った。「うっそー!! ホント!!」大興奮する私。「扉に看板があったよ。知らなかったの?」「なるほど、このアパルトマンに一目惚れで即決したのは導かれたからなのねー!!」単純明快な私は、一方的に運命を感じた。

それから取り憑かれたようにピアフの曲を聴き、図書館に通って文献を読みあさり、ピアフのゆかりの場所を歩き(たいていコアな下町です)カフェのテラスでビールを飲みながら、パリの街とピアフの歌の関係とは・・・なんて考えた。

ピアフが愛したピアフをたどる毎日。今考えるとかなり贅沢な時間ね。

パリあって、ファンキー!! 可愛い女!! 自分が好きになった男を必ず恋人にできたってのも納得。

7年間のパリの生活に区切りをつけ私は帰国し、日本での音楽活動を再開した。帰国後初のコンサートで選んだテーマは“ピアフ”。

でも、ピアフは優しくはなかった。パリではあんなに近くに感じていたのに。ピアフの凄さ、深さ、壮さに打ちのめされた。あれから6年。

私、封印していたピアフを歌いたいと思うようになったのです。というわけで、パリの下町の小さな劇場のような空間、新宿ゴールデン街劇場にてピアフの歌だけを歌うコンサートを開きます! 大ホールでは味わえない臨場感を感じる場所。現代の日本を生きる私というフィルターを通して、ピアフをお届けしたいと思っています。

サリュ・ラ・フランスvol.1でもピアフを取り上げてます。  
仏蘭西倶楽部HPにてご覧いただけます。 <http://www.franceclub.jp/>

### 貝山幸子コンサート “街色～couleur des rues Vol.2”

#### エディット・ピアフを歌うin 新宿ゴールデン街劇場

パリの下町の色が漂う、新宿ゴールデン街にある小さな劇場です。  
この街とピアフ。どんな色が漂いますでしょうか…

2007年9月14日(金) 3回公演 14時～17時/20時～

全席自由: 3000円 当日: 3500円

出演: ヴォーカル 貝山幸子 ギター 白土 廉介

予約・お問い合わせ: info@salut-paris.com TEL 03-3401-3071 (プロデューサーououu)

## 今だから見たい フランス映画 vol.6 エディット・ピアフ ～愛の讃歌～

### 2007秋全国ロードショー

主演: マリオン・コティヤール  
[TAXI]「ビッグ・フィッシュ」  
ジェラルド・ドナルド  
「あるいは裏切りという名の大」[仮面の男]  
監督: オリヴィエ・ダナン  
「クリムゾン・リバー2 黙示録の天使たち」  
原題: LA VIE EN ROSE 2007年  
フランス・チェコ・イギリス合作/カラノ  
シネマスコープ/ドルビー・デジタル、dts/

翻訳: 古田由紀子  
上映時間: 140分  
提供: ムービーアイ・エンタテインメントX  
東宝Xテレビ東京X朝日新聞社  
配給: ムービーアイ  
[www.piaf.jp](http://www.piaf.jp) [www.movie-eye.com](http://www.movie-eye.com)

伝説の歌姫エディット・ピアフの波乱に満ちた生涯を綴っている。本作はフランスで今年2月に公開され、わずか8週で動員500万人を突破。フランス国民の約10人に1人が観た事になる。



■エディット・ピアフ  
1915年12月19日パリの下町ベルビルにて生を受ける。大道芸人の父とともに、道で歌い生計を立てるも、20歳の時に名門クラブのオーナーに認められクラブデビューを果たす。殺人事件の容疑者、薬物中毒、交通事故、最愛の恋人の突然の事故死など様々な困難に直面しながらも歌い続けた。1963年に47歳の短い生涯を閉じたピアフ。彼女の葬儀の為にパリ中から人が集まり、パリの交通網が完全にストップ。パリの交通が麻痺したのは、第二次大戦以降初めての事だった。時代を超え、国境を超え、ピアフの歌は歌い継がれている。  
1998年グラミー賞名誉賞受賞。代表曲「愛の讃歌」「バラ色の人生」「アコーディオン弾き」「私の神様」など、多数。





# サリュ・ラ・フランス編集人 シャンソン歌手 貝山幸子

私が伝えたいフランスを  
お伝えできれば  
シャンソンを聞いてくれる  
人が増えるかな？！  
そんな単純な思いから  
スタートしたのが  
サリュ・ラ・フランスなのです

Sachiko KAIYAMA

「全国のフランスが好きなお人々を一つに結ぶようなフリーペーパーを出したいな！」思い続けて5年、「最低1年は続ける事。発行日を守る事。」が条件で急ピッチで創刊が決まった。思いがかなう喜びと、全くの素人の私でできるだろうかという不安。多くの方のお力添えいただき、試行錯誤を重ねヨチヨチと“サリュ・ラ・フランス”は船出したのでした。

そして10月で2年目を迎える事になります。

パリが大好きで、パリに恋して、1年住む予定が6年にもなってしまったフランスマニアな食いしん坊のシャンソン歌手、貝山幸子のプチマニアックな視点で、

これからも“美味しく楽しいフランス&シャンソン”をお伝えしていきます。SALUT!

## パリを愛する人はパリに愛された人

23歳の時、シャンソンを3曲だけ覚えて新宿のシャンソンニエへ出演してから、シャンソン歌手としての私のキャリアが始まった。大先輩のシャンソン歌手“かみやま由起さん”が私の従妹だったから、子供の頃からシャンソンは近くに流れていたけど、自分が歌うなんて夢にも思っていなかった。最初はアルバイト感覚。2年くらい経ったある日、キャロル・ロールの“Croque la lune〜月を噛む”という曲を聴いて音楽に目覚める。「シャンソンが一生の仕事なのかも。」同じ頃に、大好きなマイケル・ジャクソンが「SACHIKOパリに行け！フー！」と（その時彼はまだ黒い顔をしていた）夢の中で日本語で言った。気がついたらパリ行きチケットを予約。キャロル・ロールはカナダ人で、シャンソン歌手というよりポップス歌手。マイケルはアメリカ人。今考えると、笑っちゃうきっかけで日本大好きで海外興味なしの私が突然パリへ目覚めたのでした。

初めてのパリ。空港に降り立った時、体中の細胞がリラックスした。次の瞬間思いつめたかのように、パリに恋をしてしまったのです。

それから3年。両親を説得し、音楽活動を全てやめて、パリに飛び立った。私の音楽を探る為に。

空き巣にあたり、手遣いで第一希望の語学学校に入れなかったり、出会いや別れ、いろいろな事があつたけどパリにいれば幸せだった。パッシーの高級住宅街のアパルトマンの小さな女中部屋、鍋でイタリア米を炊く。（1日に1度はお米を食べなきゃダメな人です）モッツアレラチーズと生ハムとアボガドをオリブオイルとお醤油のドレッシングで、きりりと冷えたロゼワインと共に。きっと本誌の読者の皆様にはご理解いただけるんじゃないかな。フランスだから、パリだから感じる事が出来るちょっとした幸せ。このちょっとした幸せ感が、“サリュ・ラ・フランス”のテイストなのです。

# Sachiko

渡仏〜帰国

最初の半年はフランス語習得に力を注いだ。ソルボンヌ大学文明講座で一日5時間授業。家に帰って宿題を済ませ、夜はコンサート。在仏20年の音楽評論家の方にかわいがってもらって、いつも招待状に便乗させてもらっていた。フランス語上達の為にパリ市のカルチャーセンターで子供の剣道教師のポストについた（結局5年も続ける事になった）

自分の音楽を見つけるまでは絶対に歌わないと決めていた私は、4年間マイクを握る事はなかった。ある日、小さなライブハウスでドキドキする演奏に出会った。ヴァイオリンとアコーディオン、まさに私の求めてた音。終演後、楽屋へいきなり訪ねて、「私と一緒に演奏して！！」4年間の音楽探しの旅は終了。その後、彼らと音楽活動を始めたのでした。

1999年、日本での音楽活動に意欲を燃やして帰国を決意。1年の予定で渡仏したのに、気がつくくと6年以上の年月が経っていた。

## サリュ・ラ・フランスへの思い

「ワインが好きでフランス料理が好きだったら、パンがチーズが好きだったら、シャンソンをもっと知って欲しい。フランスの食文化に切っても切り離せない音楽こそシャンソンなんだから！」

フレンチレストランや、ワインバーにジャズやボサノバも結構。でも、いったいその店の人はシャンソンを知っているのかな？フランス文化に携わる人はシャンソンやフランス映画の黄金時代に触れて欲しい。それを知った上でジャズやボサノバをかけるのならいいけど。なんだかこのままではシャンソンを聞く人がいなくなっちゃう。帰国後そんな危機感に直面。シャンソンは、パリの空気をを感じる音楽。様々な形の愛、人生の応援歌。ドキドキ、ワクワク、心が動く歌。フランス好きの全ての人が一度はシャンソンに触れて欲しいという熱い思いが根底に流れているのです。



## 貝山幸子プロフィール

仙台市出身。全国アマチュアシャンソンコンクール東日本代表を契機に音楽活動開始。1993年単身パリへ。フランス語を学ぶ傍ら、剣道教師、通訳等しながら音楽探訪の日々を送る。エディット・ピアフ博物館があるアパルトマンへ偶然に住む。97年パリで音楽活動を再開。99年帰国。超次元音楽館やカフェコンセルシエーズをプロデュースし、独自の世界を発信する。2003年アルバム“月を噛む”発表。音楽で日仏を結ぶ。フランス語の“東京ブギ”“蘇州夜曲”は、日仏で高い評価を受けている。バルバラ、ピアフの歌はライブワークになっている。又、故郷仙台と姉妹都市レンヌ市を結ぶ文化活動を行う。2005年日本語とフランス語で故郷の歌「青葉城恋唄」をリリース。音楽活動と並行して、空間とのコラボレーション、フランスフェア、イベントプロデュース、翻訳、訳詞、エッセー執筆など、活動は多岐に渡る。乙女座 O型

貝山幸子HP/サリュ!パリ!サリュ!シャンソン  
<http://salut-paris.com/>

## マキシシングル



シャンソンの可能性を無限大に広げるSACHIKOの歌声。上質なノスタルジックが、今、世界へ羽ばたく。

### 青葉城恋唄〜愛の流れの中に

フランス語、日本語ヴァージョン収録  
定価・1050円(税込) 商品番号 COS18994 050725



## アルバム (ベルギー録音)

パリと東京で活動する  
貝山幸子のファーストアルバム  
“パリの素顔が聴こえてくる”

### 月を噛む〜Croque la lune

ウィーンにて、思いの夏 他 15曲収録  
定価・2700円(税込) 商品番号 NES18964 030714

10月4日(木) 街色〜couleur des rue” 仙台公演  
仙台市戦災復興記念館 記念ホール  
ヴォーカル/貝山幸子 ヴァイオリン/渡辺剛  
ギター/白土 庸介

カンペール  
Quimperで楽しむフレンチ

## 過ぎゆく夏と そこに来ている秋のたわむれ

生ハム、イチジク、ホロホロチョウ、ブドウ

La Salade d'été aux Figue  
イチジクを使った 夏のサラダ

Le Pintadeau farci aux Raisins  
ホロホロ鳥の詰め物 葡萄ソース

Tarte aux Poirs  
洋梨のタルト

スーププレート 22cm ¥9,450 (税込)  
プレート 28cm ¥11,550 (税込)  
プレート 21cm ¥7,560 (税込)  
スモールバスケット ¥10,500 (税込)

Photo:  
Kayoko YAMATO

ジリジリと、太陽はまだまだ威力を誇って日差しを送ってくるのに、街のショーウィンドウには茶系のシックなスーツが並び、蝉の声はヒグラシへと勢力を移した。夏でもなく、秋でもなく。残暑というより、「心待ちする秋」という言葉はないのだろうか。

乃木坂「シェ・ピエール」に行ったら、夏を名残惜しみながら秋がくることを待ち望んでいるという、やや複雑な気持ちをお皿のうえで表してくれた。

たっぷり野菜のサラダには、今夏流行ったレースや透け感を思いおこさせるほのかなピンクの生ハムに、秋の夜長を感じさせる濃厚で口にとろけるフォアグラのテリーヌ、そこにイチジクが顔をのぞかせる。日本のそれもいいが、いつもはカリフォルニア産のイチジクを使うという。ふんだんに太陽のエネルギーをたっぷり吸い込んだのか、小ぶりでも酸味が強く、しっかりした味わいになる。

そして、メインがホロホロチョウの一品。日本名のホロホロは「ほろほろ」という鳴き声からついたというが、実はこちらも思わず、頬がホロホロとゆるみそうになる。低脂肪ながら美味しいのだ。日本ではあまり飼育されていないが、西アフリカのギニア地方が原産のこの鳥は、ギリシャ・ローマ時代から食用とされ、中世末期にヨーロッパに渡り、今やフランスやイタリア、イギリスでは盛んに飼育され、食材として人気がある。

ピンクがかったホロホロチョウのムネ肉のグリーンアスパラ巻。そっと口にすると、柔らかい肉質に軽めながらもしっかりした味、さらにロクフォールの香りが広がる。まるで、夏が未練たっぷり話しかけてくるように。しかし、秋もそれに甘んじていない。マスカットワインのムスカを使ったソースとブドウの実が爽やかな酸味が秋らしさを奏でてる。

お皿のうえで、過ぎゆく夏とそこまで来ている秋が戯れるようにおしゃべりしていた。

(降田アユ)



仏蘭西倶楽部 & シェ・ピエール コラボレーション企画

仏蘭西倶楽部特別ディナーショー

カンペール陶器で食するフレンチと秋のシャンソン

2007年 9月29日 (土) 詳しくは11Pへ

Café Terrasse Restaurant

**Chez Pierre**



〒107-0062 東京都港区南青山1-23-10  
TEL 03-3475-1400

定休日 月曜日  
※8月13日から20日までお休みさせていただきます。

アクセス  
地下鉄千代田線乃木坂駅(5番出口) 徒歩1分  
地下鉄銀座線青山一丁目駅 徒歩8分  
<http://www.chez-pierre.co.jp/>

※ディナータイムに車でおいでいただいたお客さまには、麻布十番公共駐車場にお停めいただいています。シェ・ピエールが公共駐車場と当店との往復のタクシー代をご負担いたします。(ご来店時に、往路の領収書をご提出ください)



300年の伝統を誇るカンペール陶器

フランス西部、ブルターニュ地方のカンペールは、ケルト文化を今に遺す独特な文化で知られ、300年以上にわたって一つの文化を形づくり、ささえてきました。伝統的な手法で今に続くカンペール陶器は、ブルターニュの草花や民族衣装をまとった男女などすべて手描きです。

Place Opéra

■プラスオペラ

〒163-1401  
東京都新宿区西新宿3-20-2  
東京オペラシティ1階  
TEL 03-5353-0567  
営業時間：11:00～20:00





# 佐藤陽一のワインなひと時

vol.6 エディット・ピアフ

フランスに住み始めたころ最も大変だったのは、アパート探しでした。最初の1ヶ月くらいは学生用のホテルに滞在して、がんばって探し回ったのですが、なかなか場所や金額が折り合わず、やつのこと探して当たったのが、11区のゴンクールにあるスタジオでした。さあパリの暮らしだ！と思ったのもつかの間、日曜日の朝、窓を開けると、羊のにおいが中庭から立ち上ってく！みたいなアラブやアフリカの人多いうるエディットでした。そんなある日ガイドブックを見てみると、ピアフの生家が2つ駅を超えたペルヴィルにあると知り、てくてくと歩いてみることにしました。「彼女の生き様が歌がすきで！」というよりも名前を知ってるかなぐらいな感じのピアフなのですが、まあ時間はあるし、エッフェル塔も坂の上から見ることができます、みたいなことも書いてあったので、のんびりと進んでいきました。このあたりは中華街になっていて（1989年当時）ごちゃごちゃとした感じと、干魚のにおいが道にあふれているようなところを過ぎ、坂道の途中ぐらゐまで来ると、小さなアパートの壁に、「ピアフはここで

うまれる”見たいなしがあり、「ふーん、ここかー」とあまり感動はなかったのですが、何かバりに知っている場所がひとつ増えたような気がして、そんな記憶が今回のテーマを聞いてよみがえりました。少し寒くなってから、彼女の歌を聴きながら、少し古めのブルゴーニュなど飲みたいと思います。

## 佐藤陽一

1962年大阪出身、料理人をめざし東京、横浜での調理の修行後、渡仏。1987年から3年間、フランスで修行。世界最優秀ソムリエのフィリップ・フォル・ブラック氏の「ピストロ・デュ・ソムリエ」で研修した。帰国後はエノテカ・ピンクオーリ（銀座）、タイユバン・ロビュション（恵比寿）オストラル（銀座）などのジェフ・ソムリエを経て独立。ワインに限らず飲料全般をプロデュースするための会社「マクシヴァン」を設立。ワインスクールや各種イベントなどでのワインの講師の仕事や、コンサルティングを行う。2000年ワイン・レストラン「マクシヴァン」をオープン。2005年全国最優秀ソムリエ。2007年第12回世界最優秀ソムリエコンクールスペイン大会日本代表。

**MAXIVIN** マクシヴァン  
〒106-0032 港区六本木7-21-22  
TEL 03-5775-1073 FAX 03-5775-1074  
昼 火曜日から土曜日 11:45-14:00 L.O.  
夜 月曜日から土曜日 18:00-23:30 L.O.  
定休日 日曜日 <http://www.maxivin.com/>



# 恋は、ばらの香り

## La Vie en Rose

文/渡辺敦子(株)アクアメール

恋は、するものではなく落ちるもの。ある日突然そこそそ咲きこぼれる想い。恋心は、美しいばらの花に似ている。いちど咲いてしまったら、もう目を逸らせない、そのあまりの存在感に。いちど香りが鼻をくすぐったら、もう忘れられない、えもいわれぬそのかわしさを。人知れず幸せな恋心のために息をつくとき、手渡された1輪のばらの花を愛でるとき、すべての女性は輝いている。いつか消えたと知っていても、いま自分の手のなかにあるこのみずみずしく美しいものを、永遠に閉じ込めたいと願う。永遠に、ずっと…。

恋人と過ごしたかけがえのないひととき、それを思い出している時間が、最高に幸せな恋の醍醐味かもしれない。ひとり静かに、紅茶を淹れる。ばらの花びらのコンフィチュールを添えて。そして思う、こんなにロマンティックなものって他にあるだろうか。ばらの花びらをシロップで優しく甘く閉じ込めて、その芳香を愉しむために存在するものなんて。琥珀色のコンフィチュールをひたさじ、あふれる想いのために溶かそう。この恋は、この世にひとつだけ。こころはばら色の想いでいっぱい。そう、わたしはもう充分すぎるほど恋の矢にうたれているのだから。ソーサーの横には、フランスの古城に咲いたばらのコンフィチュール。白いティーカップから溢れる芳香に、朝霧に煙るフォンテーヌブローの田園風景と、壮麗なヴィ



コント城の面影が見えた気がした。紅茶とともに立ちのぼる、高貴なばらの香りに。世界のどこでもなく、フランスの古城の庭で咲き揺れるばらの花が奏でる香り。花

びらたちがゆっくりと、紅茶の中で踊る。レコードの針を落とすと、流れ出す豊かな歌声。彼女は歌う、「La Vie en Rose（ばら色の人生）」を、心の扉を開け放ったかのような声で。エディット・ピアフ、彼女もまた恋に生きた。願わくは、ばらの香りとピアフの旋律が溶けあうこの瞬間を、ずっと感じていられますように。

“ヴィコント城のばら” コンフィチュール  
(220g) 1575円(税込)



## プロフィール 渡辺敦子(わたなべあつこ)

東京都出身。フランスの美味しいものをお届けする(株)アクアメールの広報担当。サリュ連載広告をはじめ、同社の広告文およびパンフレット全般を手がける。紀行文の創作は学生時代から。「第6回小学館ノンフィクション大賞」1次選考者通過。共著に「地球あっちこっち/25人の旅人たち」(光文社文庫/辻真先監修)。幻の海塩「グランドの塩」に魅せられ、フランス・フルタージュ地方を中心に仕事・プライベートで年1回渡欧。旅と音楽とフランスのお菓子が大好き。(最愛の一品は「Le Roux」のキャラメルとシヨコラ。芸術品です！) 敬愛する作家はF・サガンとA・クリスティ。



▲ vol.6  
パリお宅訪問

## ピアフ記念館 Musée Edith Piaf

5-7 rue Crespin du Gast,75011  
TEL/01 43 55 52 72 (入場無料・完全予約制)

### ピアフの息吹を感じよう！

メトロ2番線・メニールモンタン駅からオーベルカン方面へ徒歩2分。ここにピアフの記念館がある。パリパリの下町です！この界隈は、人種のつば。あらゆる国の人が住んでいます。パリ上級編の地域ですが覚悟を決めて、是非足を運んでみて下さい。ピアフを語る上で外せない場所です。

ピアフの衣装や靴、染織、アクセサリー、秘蔵写真、流れているのももちろんピアフ。とにかくピアフ一色です。運がよければ、ピアフのお宝グッズを購入できるかも。普通のアパートマンの1室なのでバリの下町の普通のアパートマンを体験できます。完全予約制で入場無料ですが、出る時に必ずお心付けを置いて来て下さいね。一説によると、ピアフが道で歌っていた時代にちょっと住んでいたアパートマンらしい。(はっきりわかりません) なーんと、私、貝山幸子が4年間住んだ建物なのです。下町大好きな私は、偶然にも同じ建物に住む事になったのです。これって、運命！？ 貝山幸子をもっと知りたい方！P14へどうぞ！！



商品のご購入・お問い合わせは…

株式会社アクアメール 東京都港区赤坂8-4-7

TEL03-5414-7187 FAX03-5413-6342

<http://www.aquamer.co.jp>



# Salut La France ~サルユ・ラ・フランスができるまで~

会議なのか雑談なのか分からない所がポイントの楽しい編集会議が発行人横山裕子&編集人員山幸子で行われる。編集会議の必須アイテムはおいしいお料理とワイン。テーマが決まると、それぞれのページの内容詳細を決め、それぞれのセクションへ。並行して広告探しを画策する。(広告掲載ご興味のある方は是非ご一報くださいませ)

全ての原稿、写真が揃った段階で若きデザイナーが可愛いイラストに仕上げ、ざりざりのタイピングで印刷へ。

印刷担当のCIA株式会社さんは毎回ウルルCIに近い日程で仕上げてくれます。4日後、サルユ完成!東京・高輪の事務所で発送作業。(たいてい発行日より一番近い日曜日)こうして皆様のお手元へ届きます。



## メンバー紹介

発行人: 横山裕子  
編集人: 貝山幸子 営業・執筆・発送もやってみー。

**カメラマン YOLLIKO SAITO**  
担当/表紙・ローリの写真全般  
パリ在住。ヨーロッパを中心に、広告、雑誌で活躍。食、ファッション、美容、インテリア等、あらゆる分野の写真を描写。  
“世界中の美味しい情報を知っているYOLLIちゃんはパリのスーパーウーマン。たよりにしてまーす!” (S)

**カメラマン 安部まゆみ**  
担当/カンパベルで楽しむフレンチ  
93年から99年まで滞仏。現在、インテリア、料理等生活関連の撮影を中心に活動中。  
“同時期をパリで過ごした仲間。食べて、飲んで、とにかく遊びましたー” (S)

**カメラマン 大和加代子**  
担当/カンパベルで楽しむフレンチ  
ファッション誌やインテリア、お料理撮影をこなす。食べ歩きとお菓子作りの趣味が高じて、パティシエとしても活動中。  
“カメラマンとパティシエの2足のわらじを履く。美味しい加代子ちゃんのカレーは神宮前2丁目のカフェ・コスタリカ03-3479-8860で食べれます。(夜はワインバー。私もよく行く素敵な空間です。)” (S)



**ライター よしのまどか**  
担当/仏蘭西倶楽部インタビュー  
19歳で1年間フランスへ留学して以来フランス文化に傾倒。上智大学仏文科学卒業後、編集プロダクション勤務。現在、ヨガサロンとスピリチュアルアートギャラリー「GRATIA」の広報を務める。自由なコミュニティ作りを目指し、アートと音楽、アロマに包まれた癒しと創造の空間、サロン風カフェバーの実現に向けて邁進中!  
“パリのソルボンヌ大学で出会った仲間です!” (S)

**ライター 降田アユ**  
担当/カンパベルで楽しむフレンチ  
フリーライター。食や文化、歴史について雑文を書く。「シェ・ビエール」にて、楽しむフレンチを知る。的確ながらも甘く酔いしれそうな料理の紹介文を目指す。  
“謎に包まれたアユさん。美味しい文章素敵です!” (S)

**デザイナー 栗原真理**  
サルユ・ラ・フランスの号を重ねる度にフランスが好きに。皆様に素敵でかわいいフランスをお届けしていきます。  
“サルユ・ラ・フランスを美しく仕上げてください、若きデザイナー。いつも素敵に仕上げてくださいメルシーです!” (S)

## 仏蘭西倶楽部パリ支局

パリ20区物語やお宅訪問のスナップ写真。生きたパリの情報を伝えてくれます。

**HARUMI**  
1993年渡仏。パリ在住。ソルボンヌ大学文明講座でフランス語を学ぶ。中国系フランス人の実業家の旦那様と二人暮らし。持ち前の好奇心でパリを知り尽くしている。  
ソルボンヌと同じクラスになってからの長い付き合い。ファンキーモンキーなハルちゃんです。(S)

**TAMAKO**  
1997年渡仏。アンジェを経てパリへ。フーシオン本店等で勤務。紅茶のプロ。現在、日本人パティシエのご主人と、二人のお子ちゃまパリ暮らし。パリで子育て真っ最中。しっかり者でたよりになるタマちゃん。そのうち、パリでの子育てルボを御願したいな。(S)

**トロ ウェルシュココギー・カーディガン (8歳)**  
パリ13区在住。パリ支局の人気者です。無表情に甘える仕草がパリジェンヌの心をくすぐります!  
トロのお母さんは、TAMAちゃんです。(S)



**発行人 横山裕子**  
「ワインやチーズが好き」から始まり、フランスの生活をもっと知りたいたいとその道に詳しい知人を増やす。フランス語を少しでもあやうりたいたいと原語で謳うシャンソンにも挑戦した。(上達度は明かせないが)フランスファンを増やし自らも浸っていたいと本誌発行を思いつき、実現。

仏蘭西倶楽部 & シェ・ビエール コラボレーション企画

## 仏蘭西倶楽部特別ディナーショー カンパベル陶器で食するフレンチと秋のシャンソン

2007年9月29日(土)  
ディナー開始: 18時30分~  
コンサート: 20時~  
アペリティフ/ワイン  
シェ・ビエール特製フレンチコース

料金: 13000円  
(仏蘭西倶楽部会員の方は12000円)

本誌でおなじみのフレンチの名店、乃木坂シェ・ビエールの美味しいお料理をカンパベル陶器で楽しんだ後は、貝山幸子のシャンソンで初秋のひとつきをお楽しみください。

出演  
ヴォーカル: 貝山幸子  
ギター: 白土 庸介

御予約・お問い合わせ  
france-club@cia.co.jp  
TEL 03-3401-3071  
プロデュースcoucou

■編集後記 編集作業中 “バラ色の人生”を口ずさんで嬉げんだったS子。“海老ピラフ?”って聞き返したら “エディット・ピアフだよ!”とずこまれた。なんだ、嬉げんげじゃなかったのかー!! 冗談だよ!(トロ)

表紙デザイン: 桐田透  
協力: ムービーアイ  
表紙・裏表紙  
© 2007 LEGENDE-TF1 INTERNATIONAL-TF1 FILMS PRODUCTION  
OKKO PRODUCTION s.r.o. - SONGBIRD PICTURES LIMITED

仏蘭西倶楽部会員募集中 (年会費・会費無料) 詳細は <http://www.franceclub.jp/> にて

## Jane Birkin Japan Tour 2007

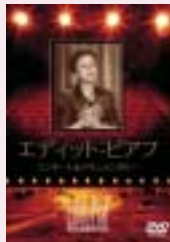
思いのまま美しく、  
ジューン・バーキンという生き方



© Gérard Rancinan

日時: 11月20日(火)、21日(水)  
開場 18:30 開演 19:00 [計2回公演]  
会場: Bunkamura オーチャードホール  
料金: S席 ¥9,000 A席 ¥8,000 (全席指定・税込)  
※未就学児のご入場は、ご遠慮下さい。  
チケット取扱: チケットスペース 03-3234-9999  
その他の公演  
11月23日(金) 福岡サンパレスホテル&ホール  
お問い合わせ: サーチアンドキー092-716-3430  
11月24日(土) Billboard Live Osaka (大阪)  
11月25日(日) Billboard Live Tokyo (東京)

貴重なコンサート映像集とフランスで異例の視聴率を記録したドキュメンタリーが、映画「エディット・ピアフ 愛の讃歌」の今秋公開にあわせてDVDリリース決定!!



「エディット・ピアフ  
コンサート&ドキュメンタリー」  
9月21日発売  
¥3,990(税込)  
発売元: 東宝

## 読者プレゼント

★バラのコンフィチュール  
3名様 (P9掲載)

★愛の讃歌 御招待券  
ペア3名様 (P4掲載)

★カンパベル陶器  
アンリオ レグボウル  
(小) 3名様 (P6.7掲載)

●応募方法  
お名前、年齢、ご住所、電話番号、メールアドレス、ご希望の商品を明記の上  
\*FAX 03-5488-7783  
\*メール france-club@cia.co.jp  
\*ハガキ 〒108-0074東京都港区高輪2-13-205  
キャトルヴァンアンコーレレーション係  
サルユ・ラ・フランス読者プレゼント係  
へご応募ください。尚商品の発送をもって発表と変更させていただきます。(2007年9月25日締め切り)

## Salut La France

■2007年8月10日発行(隔月10日発行) 第6号  
発行 仏蘭西倶楽部  
(キャトルヴァンアンコーレレーション内)  
配布先/日本全国のフランス関係機関他  
FAX 03-5488-7783  
E-mail france-club@cia.co.jp  
HP <http://www.franceclub.jp/>

発行人: Yuko YOKOYAMA  
編集人: Sachiko KAIYAMA  
編集: Madoka YOSHINO  
Harumi DOI  
デザイン: Yuichi WATANABE  
Mari KURIHARA  
Photo: Kayoko Yamato  
Harumi Doi  
印刷: CIA Corporation  
Bmercia Kaori, Tamako, Sachiko, Shoko, Takako, Rie, Shuko, Junjun  
© 仏蘭西倶楽部  
本誌掲載の記事、写真の無断転載を禁じます。